高橋 英次 議員

Q 除雪の遅い地区対応を

除雪作業は、どの路線においても早朝より町民の交通手段を確保しているが、除雪を開始する地区と最後となる地区では、大きな時間の差が出ており、最後となる地区では通勤・通学や一般生活に大変苦労されている。

こうした地区に対しては、小型の除雪ドーザを町が借り受け地区に貸与し、地区自ら除雪を行って頂くことはどうか。

朝から除雪作業に精を出す

A 対応策を研究検討

町長 山碕 英樹

本町の除雪は、飯南町除雪計画の除雪対策実施要領に基づき実施している。除雪路線は286路線、除雪車は町有の19台と、業者から18台を借り受けて実施している。

早期除雪や緊急の雪崩除去など小回りの利く対策は、集落実態調査でも意見が出ており、複数の地区から要望も聞いている。

機械配備や、集落での除雪機械の運転手確保などの課題はあるが、研究検討したい。

集落を守るということから、大切な事柄だと思っている。

Q 赤名地区の拠点づくりを

昨年、赤名自治区において集落実態調査が行われ、理想の地域づくりについて話し合われた。連帯感と一体感が生まれ、赤名の将来を見据えた地域づくりの意識が芽生えたと感じている。

今年は、上赤名自治区、下赤名自治区でも集落実態調査が行われる。3地区の調査結果を踏まえ、上赤名・赤名・下赤名の自治振興協議会が合同で、赤名地区の拠点づくりに向けた話し合いに取り組む場合には、町の協力と指導が必要だが、町長の考えを問う。

熱を帯びる意見交換

A 話し合いに期待

町長 山碕 英樹

3地区の集落実態調査の結果に基づき、赤名地区の住民一人ひとりが元気に活躍でき、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくための取り組み、U・Iターンなど、若者等の定住を進める取り組みなど、住民主体の地域活動を行う場合、拠点となる施設が必要であるということであれば、町も一緒になって考え、活動や拠点づくりに必要な支援を行っていく。

今後の地域づくりに向け、大いに話し合いが進むことを期待する。

内藤 眞一 議員

Q 福祉立町を目指せ

高齢者を、U・Iターンの募集に加えるべきだ。

本町の保健福祉施設は、県下トップクラスである。これを有効に活用し、福祉・包括ケアの町となるよう「飯南町福祉立町宣言」とでも銘打ち、全国にPRしてはどうか。

A U・Iターン施策進める

町長 山碕 英樹

高齢者が現役で活躍される期待も含め、高齢者のU・Iターンを進めることは大切。

福祉施設協議会と連携し、安心して最後まで暮らせるまちをPRしており、今後も情報共有し、U・Iターン施策を進める。

Q 通学バス活用の検討状況は

6月議会定例会で、飯南町の全児童・生徒のスクールバス利用について質問した。

また、教育経済常任委員会で、ひとり通学する児童のスクールバス利用にも意見があった。どこまで検討したか。

A 慎重に検討する

教育長 矢飼 斉

学校長とも協議をしているが、結論には至っていない。

全児童・生徒のスクールバス通学は大きな費用を伴うことから、慎重な検討が必要。保護者の意見も聴取し、校長会や教育委員会で協議する。

スクールバスに乗り込む児童

Q 通学路の安全を

頓原小・中学校の通学路に敷設されているロードヒーティングの撤去は、安全対策上問題があるとして反対する意見がある。

騒ぎの原因は、当初行われた工事説明が、工事が長期化する中で、現在のPTA会員への周知が不足したことにある。

議会としては、過去の議決を結果も見ず良否判断はできない。当初の約束通り適切に除雪等対応し、住民に説明した通り、ロードヒーティングを残して様子をみる。通学時間帯の車両通行規制も行うべきではないか。

急な坂を登ります

A 検証し方向付ける

町長 山碕 英樹

本事業は、登校路谷側を拡幅することでカーブを改善し、ロードヒーティングは廃止し、除雪車と凍結防止剤による除雪を行う方針で、平成24年に着手した。

今年度に入り、冬季の安全対策をPTAはじめ地域の皆さんに説明したところ、容認できないとの意見がでた。期間の経過に応じた説明が不足していたためでお詫びする。

今年度は、現在のロードヒーティングを使用できる状態とする。期間を定め、ロードヒーティングを使わず、除雪と凍結防止剤散布を行い、状況を検証する。

結果を踏まえ、PTAはじめ地域住民に、通学路の安全対策について説明する。